

# 彩遊祭楽

8

三谷市民文化振興財団ニュース

## 表紙の言葉

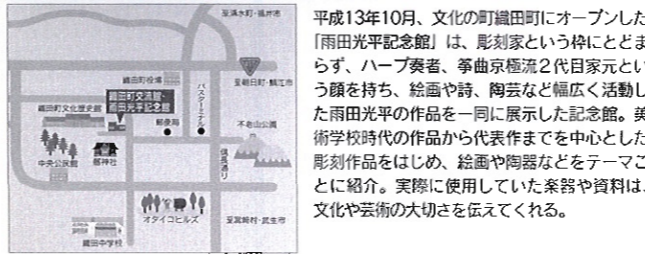
～松平春嶽～

われにさいりやくなくわれにきなし  
つねにしゅうげんとききてよろしきところにしたがふ  
じんじすべててんどうのみょうのごとし  
ふうらいせいいうあらかじめきすることかたし

明君の誉れ高い福井藩16代藩主松平春嶽が壮年期に書いた「偶作」の七言絶句。私には特別な力は伺もない。ただ常に人々の言葉に耳を傾け、良いと考えられる意見に従うまでという、春嶽の謙虚な人柄をよく表している。

「養浩館」  
「お泉水」の名で親しまれている養浩館は、かつての福井藩主松平家の別邸であった。7代藩主吉品によって、回遊式林泉庭園を主体とした書院風数寄屋造りの建物群で構築されたが、福井大空襲により焼失。昭和57年、国の名勝に指定されたのを機に復原された。

## 雨田光平記念館



平成13年10月、文化の町織田町にオープンした「雨田光平記念館」は、彫刻家という枠にとどまらず、ハーブ奏者、箏曲京極流2代目家元という顔を持ち、絵画や詩、陶芸など幅広く活動した雨田光平の作品を一同に展示した記念館。美術学校時代の作品から代表作までを中心とした彫刻作品をはじめ、絵画や陶器などをテーマごとに紹介。実際に使用していた楽器や資料は、文化や芸術の大切さを伝えてくれる。

<お問い合わせ先> 雨田光平記念館  
〒916-0215 福井県丹生郡織田町織田153-1-3  
電話0778-36-2666

## 財団法人 三谷市民文化振興財団

〒910-8510 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル TEL0776-20-3188 FAX0776-25-3911

財団法人三谷市民文化振興財団は、ボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の支援を目的として作られた財団です。毎年5月に助成団体を広く募集しています。この遊楽祭(毎年1回発行)は、県内で活躍する人やグループ、各地で企画されているイベントを紹介し、ボランティア活動、スポーツ活動、市民活動のネットワーク化、活性化の促進を目的としています。  
<http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/>

2002・12月発行

このニュースに関するお問い合わせは、TEL0776-33-7571 (株)コミネットまで

## 三谷市民文化振興財団の助成団体

様々な場面で「仲間」と活動するグループを紹介します。



連絡先 点字図書館  
TEL 0776-23-4647

福井県点訳むつみ会は、視力障害者のための点訳を行っているボランティア団体。県内7支部にわかれ、点字図書制作、月刊誌3誌の共同点訳をメインに、公共施設等のガイドブックの点訳、学校や各地区での点字指導や研修会などの活動を行っている。専用のソフトを使用しパソコンで点訳文書を作成するが、6点の組み合わせで表される点字は、独特の仕組みや文法などのルールをマスターしなければならぬ。さらに読み間違いや打ち間違いがないよう、丹念なチェックが必要だ。「日本語を正確に読むことが大切。いろいろな読み方がある人名や地名で悩まされることも」と代表の松本さん。

最近では、J月の時刻表、自動販売機、郵便ポストの集配時刻など対象は際限ない。「スポーツ大会等に参加して視力障害者の方たちと一緒に楽しむこともありませう。点訳を通じて様々な活動を行っていきたい」と語ってくれた。



福井ジュニア・フィルハーモニック事務局  
TEL 090-1312-9300

弦楽器を学ぶ場合、マン・ツリー・マンによる個人レッスンが行われる。そのため県内では弦楽器を学ぶ小中高生が気軽にアンサンブルに参加できる場がなかった。そこで「仲間たちと合奏を楽しみたい」という子供たちの夢を実現しようと1997年に結成されたのが、福井県唯一の少年少女オーケストラ「福井ジュニア・フィルハーモニック」だ。

メンバーは、県内の小学4年生から高校3年生までの25名。常任指揮者に豊嶋和史氏を迎え、パロック音楽を中心にさまざまなスタイルの合奏に取り組んでいる。合同練習では、メンバーがそれぞれ持ち場を変え、いろいろなパートを経験し、腕を磨いている。

創立5周年を迎えた12月の記念公演では、福井市出身の世界的バイオリニスト・戸田弥生氏との共演が実現する。「いつかは一緒に演奏したい」というあこがれのバイオリニストとの共演に、子供たちの練習にも一層熱が入る。少年少女時代のオーケストラの体験、そして一流の音楽家との共演は貴重なものとなるに違いない。

多くの書籍に触れ、豊かな心を育てて欲しい  
福井県点訳むつみ会 (福井市)

福井から世界に向けてフレッシュな響きを  
福井ジュニア・フィルハーモニック (福井市)

CULTURAL PRESS



養浩館

我に才略無く我に奇無し  
常に衆言を聴きて  
宜しきところに従ふ  
人事渾て天道の妙の如し  
風雷晴雨  
予め期すること難し

松平春嶽

ふくいニューイヤーコンサート2003  
1/12 (日) 14:00~  
福井市文化会館 (福井市春山)  
福井市内で活動する音楽家・芸術団体による合同コンサート「ふくいニューイヤーコンサート」も、今年で10回目を迎える。大正琴で独自の世界を築いた西沢純子とエレガントストリングアンサンブルの大正琴演奏や、高橋雅抄とグループ雅による華やかな演奏、合唱団もんしろちよう、アンフィニの深く心にしみわたる歌声が楽しめる。  
一般500円、高校生以下無料  
(問) フルーツドゥパーン  
■0776-26-2424

開館25周年記念  
近代日本画の巨匠と館蔵名品展  
1/17 (金) ~ 2/9 (日)  
福井県立美術館 (福井市文京)  
福井県立美術館25周年を記念して、初学院展関係の作品を中心に、近代日本画巨匠の作品と館蔵名品の展覧会を開催。父を福井藩士にもつ岡倉天心は、美術行政家、美術運動家として近代日本美術の発展に大きな功績を残した。そんな天心に関係の深い日本画家の作品や、福井にゆかりのある作品、国内外、時代を問わず優れた作品を大規模に展示する。  
一般400円、大高生200円、中小生100円  
(問) 福井県立美術館 ■0776-25-0451

第二回 酒の器展 入賞作品展  
1/18 (土) ~ 2/23 (日)  
金津創作の森アートミュージアム1 (坂井郡金津町宮谷)  
隔年開催の全国公募による酒器・くい呑み等の入賞作品展を開催する。実用性を前提としながらも、従来のカタチを大きく打ち破った芸術性・デザイン性の高い、そして「新しいライフスタイルの提案」として新たな「用」を呼び起こす個性的な酒器をテーマに、全国から募集した作品を紹介する。展示作品は予約販売可能。  
300円  
(問) (財)金津創作の森財団  
■0776-73-7800

福井の 祀り・風習

1

三方郡三方町 気山



王の舞  
4月8日

国の無形文化財に指定されている王の舞は、宇波西神社の春祭りに奉納される代表的な芸能行事の一つ。  
舞の当番にあたる集落の青年が、鳳凰の冠をかぶり、鼻高の王の面をつけ、赤い衣装を着て、笛太鼓の囃子にあわせ、矛をかかげて五方を突くように舞うもので、三週返し、本舞、雀踊り、ニギリメシなどの舞方が伝えられている。舞人を転倒させると豊漁豊作になるといわれる伝説がある。



狂言の現在2003  
野村万作 新春狂言  
1/20 (月) 19:00~  
福井市文化会館 (福井市春山)  
当代随一の狂言師・野村万作と、映画「陰陽師」の主演など俳優としても活躍する息子・萬壽が共同して取り組んだDVD「伝統の現在スペシャル」の発売記念舞台。狂言界の若手ホープ野村萬壽が、初心者・若年層を対象に、狂言の楽しみ方を優しく解説するレクチャーワークの他、百姓物としては異色の「佐渡彌」、典型的な演目「釣針」などの舞台を演じる。  
6,000円 (問) イッセイプランニング  
■076-444-6668

ブラハ交響楽団with中村絢子  
1/23 (木) 19:00~  
ハーモニーホールふくい (福井市今市町)  
日本を代表するピアニストとして、不動の座を保ち続ける中村絢子をソリストに迎え、百塔の街ブラハが誇る名門オーケストラ、ブラハ交響楽団が祝うニューイヤーコンサート。優美な指揮スタイルで世界的に名声を獲得しているズエニエック・マーカルを首席指揮に、交響曲「モルダウ」、ピアノ協奏曲第1番、交響曲第9番「新世界から」などを演奏する。  
S:7,000円、A:6,000円、B:5,000円、C:3,000円、小中高大学生半額  
(問) チケットセンター  
■0776-38-8282



初笑い 桂文珍 独演会  
1/26 (日) 15:00~  
ハートピア春江 (坂井郡春江町西太郎丸)  
時代をキャッチする鋭敏なセンスと芸人としての幅広い活動を展開し、「落語的学問のすすめ」や「日本のサラリーマン」などの執筆活動も積極的に取り組んでいる桂文珍。一番弟子にあたる桂家珍と桂珍念を引き連れての落語独演会を開催する。古典的落語の中にも現代の風潮を取り入れた、文珍の見事な話芸をたっぷり堪能しよう。  
大人3,000円、高校生以下2,000円  
(問) ハートピア春江 ■0776-51-8800



レザール・フロリサン メサイア  
2/11 (火・祝) 14:00~  
ハーモニーホールふくい (福井市今市町)  
フランス・バロックの作品を次々と蘇らせ、センセーショナルな活動続ける

福井の 祀り・風習 2  
表見の米  
9月14日



管弦楽合唱団「レザール・フロリサン」で聴く珠玉のメサイア。音楽監督・指揮には、エクサンプロヴァンスをはじめ、世界各国の音楽祭に招かれるほか、昨春秋にはベルリン・フィルを客演するなど話題満載のウィリアム・クリステイ。最高のキャストでお送りするハレルヤコーラスをお見逃しなく。  
S:7,000円、A:4,000円、S:ペア:10,000円、小中高大学生半額  
(問) ハーモニーホールふくい  
■0776-38-8282



劇団四季ファミリーミュージカル  
「冒険者たちーガンバとその仲間ー」  
2/27 (木) 18:30~  
ハートピア春江 (坂井郡春江町西太郎丸)  
斉藤惇夫の「冒険者たち」を原作に、手に汗握るアドベンチャーを劇団四季が、パワフルな歌と踊りで繰り広げるファミリーミュージカル。平和に暮らす町ネズミ・ガンバとマンブク。そこへ瀕死の傷を負った島ネズミ・忠太がやってくる。探偵白イタチ・ノロイに襲われた島ネズミたちを救いに、ガンバとその仲間たちの冒険が始まる。  
大人4,000円、中学生以下2,500円  
(問) ハートピア春江 ■0776-51-8800



森進一&森昌子 オン・ステージ  
~人生・愛・歌~  
3/2 (日) 14:00~、18:00~  
福井フェニックスプラザ (福井市市原)  
昭和41年にデビュー以来、昭和歌謡史に数々のヒット曲を残し、国際的なボランティア活動を行いつつも常に歌謡界のトップスターとして歌い続けてきた森進一。そして2001年に16年ぶりに復活し

表見の米  
9月14日

布久瀨神社に古くから伝わる神事。9月14日の宵に、公民館に集まった男たちが太鼓のはやしにあわせて跳ねあがる「おたしより」という行事を行う。続いて、奉納されたお初穂米を「今掘り米は、百姓の涙米」と歌いながら掲ぐ。最初は6人で回し掛きをし、次第に人数を増やしていく。一回つき終わるたびに、臼を持ち上げ力自慢をする。蒸し上がった米は神前に供えられ、丸く固めたものが参拝者にふるまわれる。これを表見の米という。

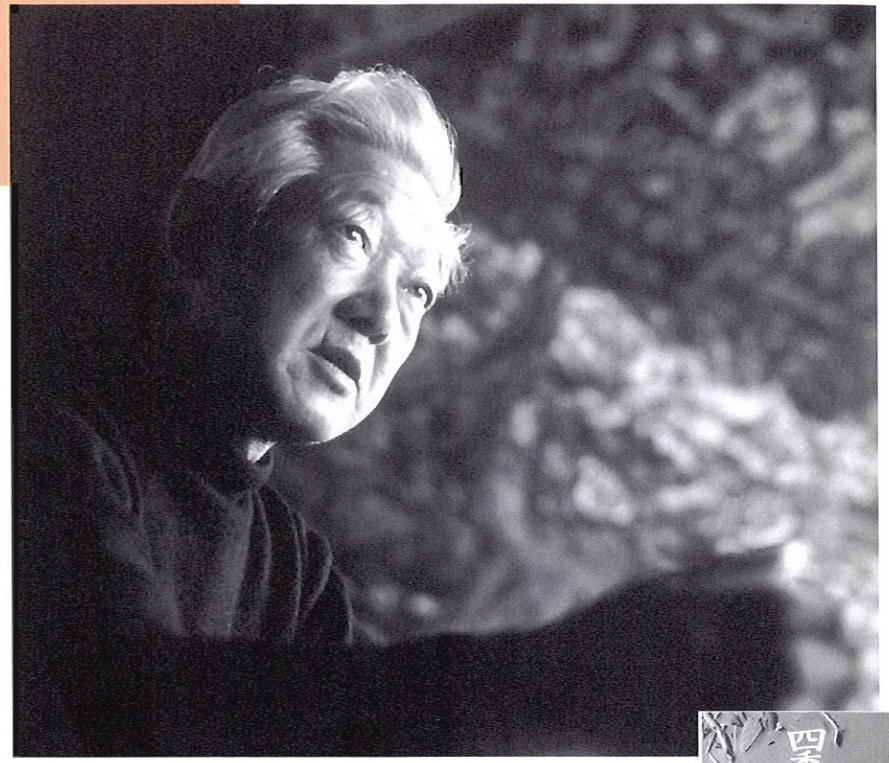
た森昌子との夫婦ジョイントコンサートが福井にやってくる。デビュー曲「せんせい」などのヒット曲のほか、森進一とのデュエット曲もしつとりと聴かせる。  
S席8,000円、A席7,000円  
(問) FBC事業局 ■0776-57-7830

こども自然教室「恐竜を復元しよう」  
3/22 (土) 13:00~15:00  
福井県立恐竜博物館 (勝山市村岡町寺尾)  
福井県立恐竜博物館では、小学4年生から中学3年生を対象に、恐竜の骨格模型をもとに粘土を使って恐竜を復元することも自然教室を開催。講師には、各地自然史博物館の復元模型制作、恐竜図鑑への作品協力等を行う恐竜造形家・荒木一成を迎え、わかりやすく指導する。事前に往復ハガキ、E-mailにて申し込みが必要。  
(問) 福井県立恐竜博物館  
■0779-88-0001

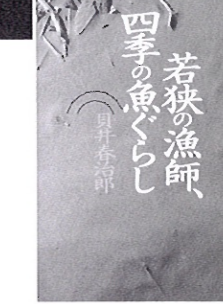
加藤すみ子 ろうけつ染画展  
3/27 (木) ~ 3/30 (日)  
福井市美術館 (福井市下馬)  
ろうけつ染による絵画制作を25年余り手掛ける染画家加藤すみ子の作品を一堂に展示する。ろうけつによって描かれる細かな描写と温かく自然な色合いが、独特の世界を創り出す「ろうけつ染画」。インドネシアで作られた宗教的な作品や、日本で作られた自然をイメージした作品など、土地や自然そのものが持つ生命力に溢れる作品が揃う。  
無料  
(問) 福井市美術館 ■0776-33-2990

マスクブレイミュージカル  
「そんごくの大冒険」  
3/28 (金) 11:00~  
福井市文化会館 (福井市春山)  
スケールの大きな冒険物語「そんごく」があの劇団飛行船によるマスクブレイミュージカルとしてやってくる。巨大スクリーンが現れアニメ映像と役者がドッキング。一流の俳優たちの声と、一流の動きを見せるマスクブレイヤーが一体となって、最後まで目がはなせないミラクルファンタジーだ。  
S:3,000円、A:2,500円、B:2,000円、C:1,500円  
(問) 福井市文化会館  
■0776-20-5010

ござんせフェスティバルin きのこの森  
5/3 (土・祝)  
きのこの森 (大飯郡大飯町鹿野)  
大飯町の特産品きのこのミニテーマパーク「きのこの森」で毎年行われる「ござんせフェスティバル」が、今年で10周年を迎える。近年、健康食品として注目を集めているきのこの森をテーマに、様々なきこの料理を紹介するほか、子どもも楽しめるイベントが盛りだくさん。雄大な自然と青空の下、家族でわいわい楽しもう。入園料200円  
(問) (財)大飯ふるさと振興公社  
■0770-77-2811



●プロフィール  
かいい はるじろう / 1934年福井県高浜町生まれ。中学卒業後、家業の漁業に従事。現在も若狭の海で、たこほろ漁、イカモンドリ漁などの磯漁を行う。同時に画家としても活動。53年福井県総合美術展に入選以来、61年に「鯨」で既交会、69年「たこほろ」で県展に入選。日々暮らした日記は、「若狭の漁師、四季の魚ぐらし」(草思社)で紹介している。



若狭湾を知り尽くした漁師が描く  
人と魚、そして海が持つさまざまな表情  
貝井春治郎 HARUJIRO KAI

貝井春治郎さんは、若狭湾の漁村に生まれ、長年、ワカメ刈りやたこほろ漁などを行っていた現役の漁師。そして福井県内にとどまらず、関西を代表する画家という顔も持つ。海に面した漁具置き場の2階にあるアトリエから、ダイナミックな作品を生み出している。  
絵を描くのは子どもの頃から好きで、中学生の頃から、通信教育で水彩画を勉強していた。その後、漁師の活動と並行して、デッサンや油絵を学び、技術を身につけた。秋と冬は海が荒れて漁に出られないので、造船所へ働きに行く。そのときは必ずメモを持参し、暇を見つけては、人物のデッサンをした。汽車の中でも、描いていたという。  
53年、鯖魚を描いた「火船(ほふね)」で第6回福井県総合美術展に初入選。翌年には3人の漁師の絵を出展し、以後、本格的に漁師や海の絵を描き始めた。「僕は海を見ながら描くのでは、全部、イメージ。船の姿も魚の様子も、みんな頭の中に入っているんです。僕の本業ですからね」。大胆な構図で描かれた作品は、「自分

画家ではなく漁師」と話す貝井さんの生活そのもの。海の男にしか描けない絵が、見る人に熱い思いを感じさせる。  
既交会に入選した「鯨(あんど)」は、雲が魚の形に見えたことから、暗雲を舞う作風を思いつき描いた作品。魚が好きでたまらない、貝井さんならではの発想だ。この斬新なイメージが高い評価を得て、その名を広めた。  
6年前からは毎日絵日記も書き続け、2、3分というスピードで、そのときの思いを画用紙の上に表現している。絵の裏には天候や海の状況、気温も書き記す。まさに若狭湾の記録だ。「描くことは生活の一部です。海から離れたら自分でなくなる気がします。だから今後も、海を描いていきたい。大勢に見てもらおうのが目的ではない。ひとりでも自分の絵を好きと言ってくれる人が見てくれれば満足。そして人や魚、海の匂いを感じてくれたら、本望ですね」。  
描き始めると手が止まらない貝井さん。今度どのような海の表情をとらえるのか、興味が尽きない。